

古今一如

— 糸魚川歴史民俗資料館 《相馬御風記念館》 だより —

ここんいちによ 第4号

発行日 平成23年3月29日
編集・発行 糸魚川歴史民俗資料館
〒941-0056 糸魚川市一の宮1-2-2
TEL・FAX 025-552-7471
URL <http://www.city.itoigawa.lg.jp/>
E-mail bunka@city.itoigawa.niigata.jp

御風没後60年を振り返って

館長 小林 強

糸魚川地域では、立春を迎えるころから夕方のチャイムが御風作詞の童謡「春よ来い」に変わります。季節感あふれるメロディーを聞いたたびに、冬の終わりと春の訪れを意識するのは私だけではないでしょう。

近年、若者たちの「御風離れ」が叫ばれています。手間と費用をかけた顕彰事業や展覧会ももちろん効果はありますが、このように身近に、自然に、繰り返し御風作品に親しんでいただく機会を増やしていくことが大切であると感じます。

さて、御風没後60年の節目を迎えた昨年——平成22年は、有志の皆さんのご支援とご協力をいただきながら、さまざまな顕彰事業を進めてまいりました。

まずは、『相馬御風宛書簡集Ⅳ（第四集）』出版です。当館が所蔵する御風宛書簡は一万二千通に及び、差出人には日本の文化、教育、政治、経済など各界をリードした著名人も少なくありません。この貴重な資料群を公表するため、平成7年に編集を開始。以来16年の歳月を費やし、最終巻となる第四集を出版できましたことは、まことに喜ばしいことです。

調査研究はもとより、書簡の解説や解説の執筆にもご尽力いただいた編集委員の方々をはじめ、公開をご快諾くださいましたご遺族の皆様など関係各位に、心よりお礼申しあげます。

また、5月8日の命日には、民間主導の刊行委員会によって、御風の作品や収集資料など約700点を収めた大冊『相馬御風遺墨集』が出版されました。限定350部は予約で完売し、御風の研究者や作品収集家のみならず、一般の方々からも好評をいただいているところです。

当館は、事務局として資料調査や撮影等編集作業に参画しましたが、未公開作品など数多くの貴重な品々を拝見し、研究を進めていくうえで大きな収穫を得ることができました。

今後は、既存の書籍等も含めて、これらのツールを最大限に活用しながら、御風顕彰活動を推進してまいります。

これと並行し、没後60年を契機として、これからは御風の「偉大な功績」ばかりではなく、「人間性」にも光をあてていきたいと考えています。良寛の名を全国に知らしめた御風著書『良寛さま』『良寛坊物語』も、こどもたちと遊び、自然を愛でる良寛の姿が多くの共感を得たわけですから——具体的には、当館と県史跡 相馬御風宅において「御風と出会う場所」をキャッチフレーズに、より親近感を持ってもらえるように展示・案内方法を工夫します。

最後に、昨今の厳しい財政状況を踏まえ、当館を含めた公営文化施設においても管理運営体制の見直しを迫られています。費用と効果を十分検討しながら、より一層のサービス向上と文化情報発信に努めてまいりますので、変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願い申しあげます。

平成23年度の主な事業

「展覧会」

□「相馬御風遺墨集」出版記念展

相馬御風遺墨展（平22・6・11～7・25、同刊行委員会との共催）

□白山神社 社宝展（平22・7・30～、白山神社との共催）

□「相馬御風宛書簡集Ⅳ」出版記念展

山本五十六と相馬御風（平成22・10・1～11・7）

□新潟県立近代美術館 巡回ミュージアム（平22・11・12～12・5、県立近代美術館、糸魚川市等との共催）

「書籍等の発行」

□「相馬御風宛書簡集Ⅳ」（平22・3・26、759ページ、糸魚川市教育委員会発行）

□DVD「相馬御風のあゆみ」（平22・3・20分、糸魚川市教育委員会発行）

□相馬御風没後60年記念

相馬御風遺墨集（※事務局として参画、平22・5・8、二冊組、714ページ、『相馬御風遺墨集』刊行委員会発行）

「出前講座」

□大和川地区公民館教養講座

相馬御風の生涯と業績 ※全5回

・大和川自治会館（平22・2・3）

・田伏自治会館（平22・2・10）

・厚田公民館（平22・2・23）

・梶屋敷児童会館（平23・2・3）

・竹ヶ花公民館（平23・2・10）

※事業の詳細は、6ページからの「事業報告」をご覧ください。